



学問の森に入ってみよう

～考え方のヒント～

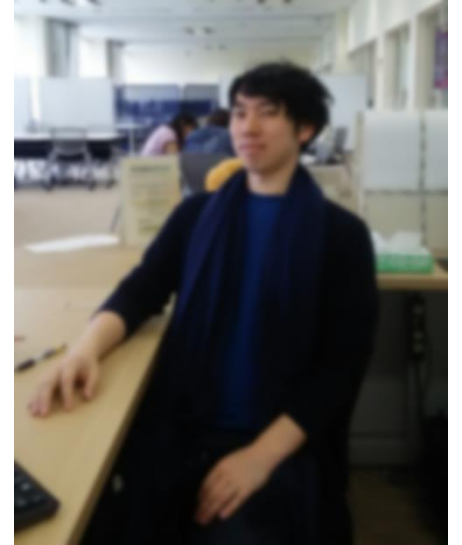
図書館 4F 学習相談デスク LC 佐久間 翔

●佐久間 翔

●大学院 博士後期 国際社会

●専門：計量経済学・開発経済学・貿易投資論

●職歴：日系金融機関など



世界は未知であふれている！

- わからないことがありすぎて、みじめになる
- 勉強しても、わかるという実感が無い
- 何に興味があるのかわからない
- すべてがどうもつまらない

大学・・・**自分の意思**で行動を選択
主体性



世界はいろいろと雑多な状態



雑多な世界に対峙したとき、どのように進んでゆくか？

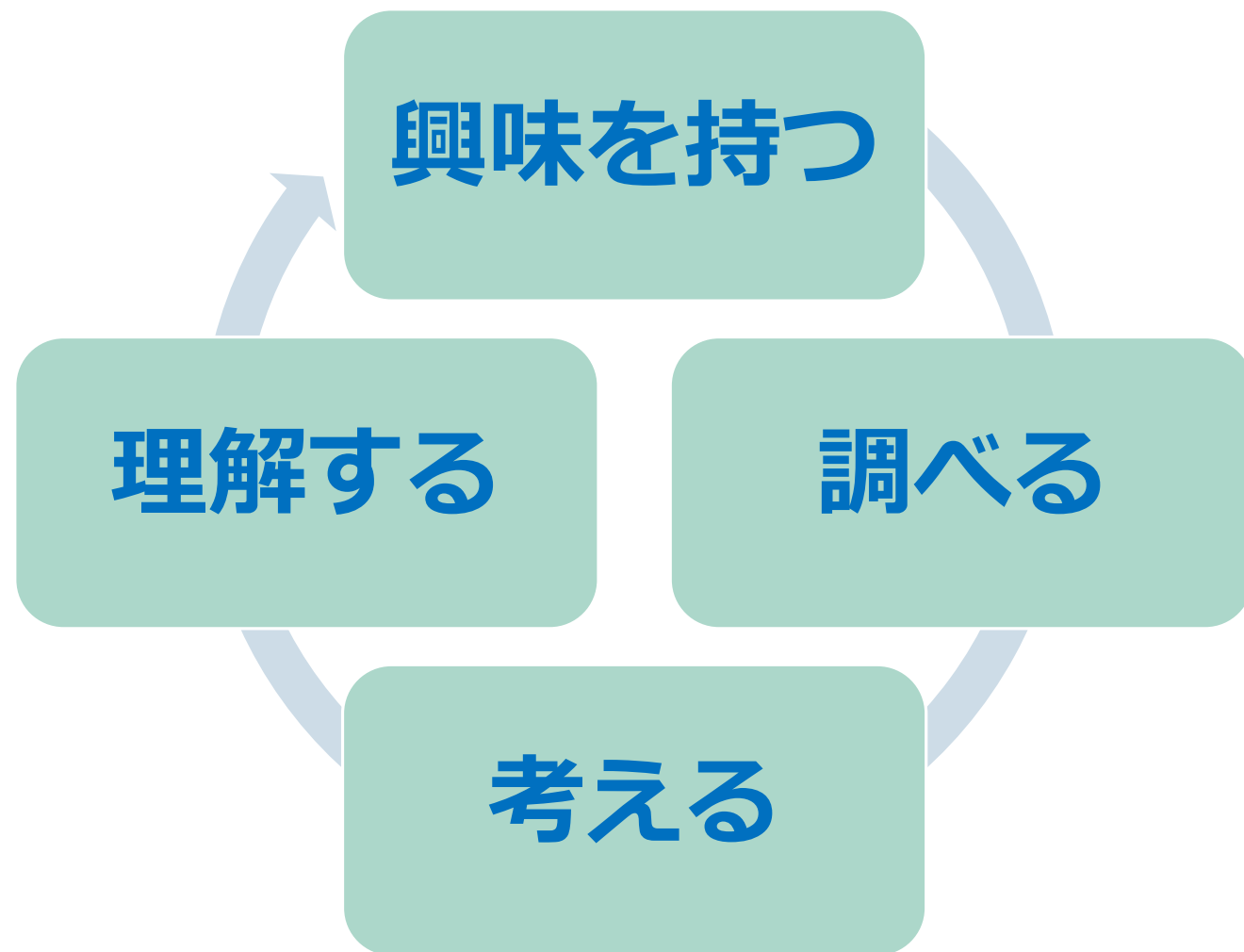
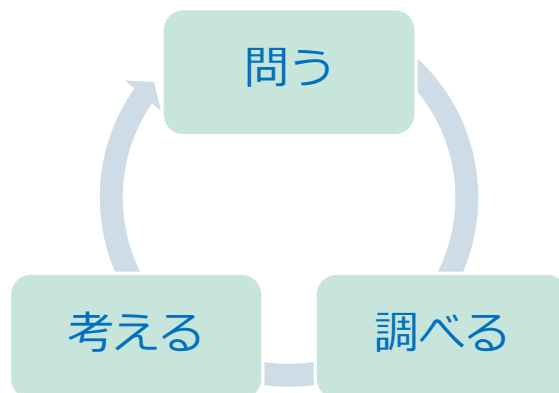
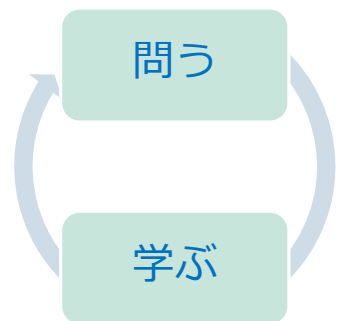


学問ってなに

- 理論に基づいて体系づけられた知識と研究方法の総称 (デジタル大辞泉)
 - 普遍性 (客観性、論理性)
 - 公正性
 - 創造性

**“世界を認識するにあたって、どのような姿勢をとるか”
がポイントとなる**

学問のサイクル



興味(疑問)を持つ



「何か変だ」「なんでだろう不思議だな」



“**問い**”のかたちにする事で、
具体的に考えることにつながる！

興味(疑問)を持つ

● “問い”の進め方、深め方

- ① ○○に興味がある 知りたいと思う
- ② ○○は、どうなっているのか？
→ 実態を問う
- ③ 「なぜ」を試してみる
- ④ 前提を疑ってみる

調べる、の前に

こんなこと、ありませんか? ... 外語生ケイコの場合



〇〇についてのあなたの意見を聞かせてください。ケイコさん?

(はあ? 意見とか言われても〇〇についてわたし深く知ってるわけじゃないし。やばっ) すみません、勉強不足で知識が少ないのでよくわかりません。。



調べる

“正解があるはず”という思い込みから離れてみる

- 情報の発信者と**対等な立場**に立つ
- 情報の発信者には、**発信者の意図や動機**がある
- 知は常に**変容し続ける**

調べる

- 調べるときは、興味の対象に関する情報の**おおむね全体**を把握しよう
 - **全体像**はどのようなものか
 - **中心・周辺**の広がり、**傾向**を知る



個別の任意の情報(言説)が
どのような**立ち位置**にあるかが分かる

考える

自分の意見を持つ・自分の頭で考える とは



常識にしばられたものの見方から解放されよう！

- 鵜呑みにせず**疑ってみる**
- **視点**をかえてみる
- **複眼的**に捉えてみる
- **相対化**してみる

ふたつの“考える”

抽象的

具体的

●ステレオタイプにとらわれ思考停止になる懸念

●個別のケースの特殊性に囚われ、広がりにつづかない懸念

考える

- 具体から抽象へ**“概念化”**をつかってみよう

これまで見過ごされてきたことに光を当てる

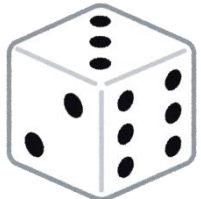
- これまで**同じと思われたことを区分する**
- これまで**バラバラだったことを共通性でくくる**

考える

- 物事の**多面性**に気づこう



一見ひとつのものごとに見えるものでも
実際は複数の要素が複合しており
それらの結果であることが多い！



考える

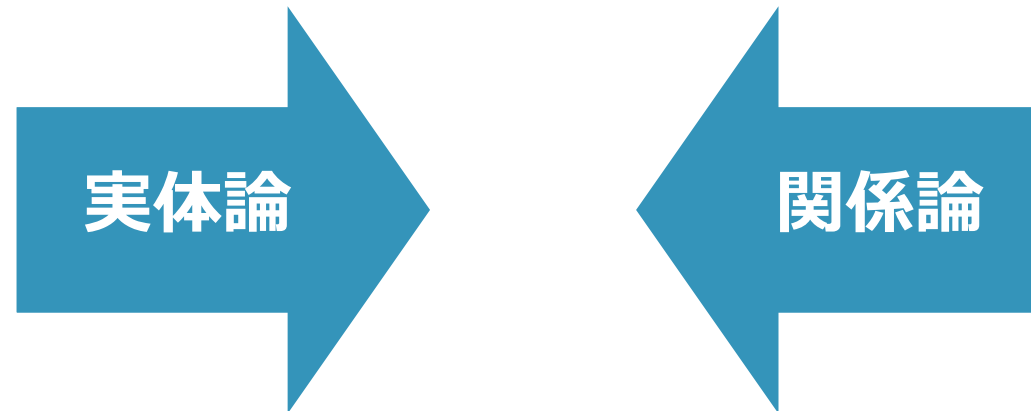
● 多面性について考える

- 扱う事象はどのような要因・要素の複合が分解する
- それぞれの間にどのような関係があるか
- 要因の複合のなかで、扱う事象はどのような位置を占めているか？



考える

多面性に注目・・・**関係論的**な見方



- **〇〇化**としてとらえる
- **プロセス**をみて関係で存在を考える

世界はいろいろと雑多な状態



- 不安はあっても雑多な世界を受け止めよう
- 確からしいものを自分の手と目で探し続けよう
- 見つけたものをいろいろな面から見つめ
考えてみよう
- 自分が持っている知見に自信を持ち次に進もう

最後に

●参考文献

苅谷剛彦(2002)『知的複眼思考法』
小林康夫(編)(1994)『知の技法』